

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K19678

研究課題名（和文）市民との対話から探求する学童を育てている家族の食に関する多彩な家族保健機能

研究課題名（英文）A variety of family health functions related to food for families raising school children to be explored through dialogue with citizens

研究代表者

山崎 あけみ（Yamazaki, Akemi）

大阪大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：90273507

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：学童が食事に関する家族の日課の役割を担うとき、親子にどのような家族保健機能があるのかを提示した。10組の親子に半構造化面接を行った後、17組の親子へのグループインタビューにより、カテゴリーを演繹的に確認した。6つのカテゴリーと19のサブカテゴリーが抽出された。これらは、学童と家族の健康機能に対応した保健指導を行う際に有用である。

日本語版FCS-J（Feeding Coparenting Scale）を開発した。FCSは、子どもに食事を与える際、養育者間の相互作用を測定するものである。ウェブベースの横断調査により学童を持つ135人の親を対象とした結果、FCS-Jの信頼性と妥当性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

家族保健機能は、家族研究において、すでに開発された関連する理論や測定用具は多い。しかし、これらは、時代や文化的背景により影響を受け、変化するものである。本研究における学術的意義は、家族機能という抽象的な事象の中でも、どの家族でもその世代の生活を反映しつつ日々繰り返されている食事という場面に着目し、中範囲理論の生成と尺度開発を行ったことである。食事場面での学童の家族役割獲得過程、および学童期の食に関する共同養育尺度の提示は、日常的かつ具体的であり、この成果は広く社会的に受け入れられやすい。

研究成果の概要（英文）：Study 1 was to identify the type of family health functions that parents and their children have with each other when late-school age children take on roles in family routines related to daily meals. First, 10 parents and child dyads were interviewed. Next, online group interviews were conducted for 17 dyads to deductively confirm the categories. Six categories emerged with nineteen subcategories. The six categories will be useful for healthcare professionals in providing health guidance that addresses health functions of late-school-age children and their families.

Study 2 aimed to develop a Japanese version of the Feeding Coparenting Scale (FCS-J). FCS, a measure of how parents interact with their partners when feeding their children was developed. This was a web-based cross-sectional survey completed by parents of children aged 10-12 years. Findings with 135 parents of school-aged children showed good reliability and validity of FCS-J.

研究分野：家族看護学

キーワード：家族機能 学童 食行動

1. 研究開始当初の背景

食は、家族にとって日課であり、家族保健機能を考える上で重要な要素である。子どもの発達の側面からも、誰かと食事を共にする「共食」中でも家族との共食は重要視されている。第2次食育推進基本計画では、その目標・重点課題の一つとして「家庭における共食を通じた子どもへの食育の推進」が位置づけられ、朝食または夕食を家族と一緒に食べる回数の増加が目標の一つであった。第3次食育推進基本計画でも、世帯構造やライフスタイルの変化、多様性を考慮しつつも、共食頻度の増加を目標としている。しかし、家族との共食頻度は、夕食を週5日以上家族そろってとる人は半数に留まる。近代化された社会では、親子ともに家族外ネットワーク(仕事・趣味・SNSなど)が豊かになり個人化傾向が高まるので、食に限らず、必然的に家で家族と共に過ごす時間は制限されるからである。即ち、親子の共食頻度に囚われず、現実を反映した食に関する多彩な家族保健機能の探求が必要である。

育児期の家族の食に関する研究は、2000年代以前は、栄養摂取量に関する研究成果が重視される傾向にあった。2000年代以降、2005年食育基本法、翌年には食育推進基本計画が策定され、ライフサイクル全般にわたって食育への取り組みがはじまり、第3次食育推進基本計画に至り、共食頻度だけではなく、食事時間の家族間相互作用を観察する等、食行動に関連する心理・社会的な調査も多くなった。

2. 研究の目的

本研究は、近年の家族形態や子育て家族のライフスタイルの多様性を反映した、学童後期の子どもを育てている家族の食に関する多彩な保健機能に関する中範囲理論(研究1)および指針となる測定用具(研究2)を開発することを目的とした。

3. 研究の方法

研究対象は、家庭内から学校生活の中での自身の意思決定による食行動が確立してゆく時期であり、家族保健機能の観点からも、子どもが家族内で日常生活における役割を獲得しつつある時期であることから、学童後期の子どもと家族を対象とした。

フィールドは、研究1は、大阪大学21世紀懐徳堂ラボカフェ、および大阪大学共創機構社会学共創部門と三井不動産株式会社の協力のもと、ショッピングモール EXPOCITY で開催される、はんだいラボ(現地・コロナ禍にはオンライン)にて、ラボ参加者に広報し実施した。研究2は、研究協力者が外部講師として、継続して家庭科授業を実施しつつ児童との関係を形成しながら、近隣小学校で行った。

研究デザインは、研究1は、親子ペアインタビューを2020年1月11日~4月3日に各親子約1時間程度実施し、カテゴリーを抽出した。その後、親子グループインタビューは2020年8月22日にオンライン上で30分程度を実施し、カテゴリーの確認を行った。グラウンデッド・セオリー・アプローチにおける継続的比較法を用いた質的研究デザインである。

研究2は、食に関する共同養育に着目した。Feeding Co-parenting Scale(FCS)は、16項目(3サブスケール)から構成される米国で主には幼児期の両親の食に関する共同養育を測定するために開発されたものである。開発者の Dr.Tan から学童期への適用について説明し、翻訳許可を得て、2名の共同研究者により順翻訳を行い、医学系論文翻訳業者により逆翻訳の後、Dr.Tan から最終的な使用承諾を得た。2022年6月~12月に、学童後期の養育者を対象とし、FCS-Jの信頼性・妥当性の検証を行った。

4. 研究成果

研究1：親子ペアインタビューに参加した親の平均年齢は41.9歳、子どもは10.4歳であり、10組の親子(男児5名、女児5名)が参加した。グループインタビューには17組の親子が(母親12組、父親5組、男児4名、女児13名)参加し、親の平均年齢は41.1歳、子どもは9.6歳であった。インタビューの実施時間は親子ペアインタビューが平均77.1(SD=±11.3)分、グループインタビューは各グループ平均33.0(SD=±4.1)分であった。

家族保健機能の中でも、学童にとって食事の手伝いという家族内での役割獲得過程では、親子は【子どもの意欲を共有】【手伝いに参加するかの掛け合い】【交渉スキルの活用】【危険への異なる認識】【距離感を模索】【実施主体を移行する場】【レクリエーションとしての手伝い】【手伝い後も続く積極的なコミュニケーション】という8カテゴリーが抽出された。

研究2：異文化同等性の検証として、学童後期の養育者11名に質問紙予備調査とインタビューを実施した。本調査は、246名の学童後期の養育者にオンライン調査にて行い、135名(108名

の母親)から回答を得た。FCS 総得点は、46.2 (SD = 6.2) 内的一貫性は $\alpha = 0.72$ (サブスケールでは、 $\alpha = 0.75 - 0.79$) 再テスト法では、 $\alpha = 0.88$ (サブスケールでは、 $\alpha = 0.71 - 0.93$) で、因子分析の結果、累積寄与率 48.8% 原版どおりの構造となり、FCS-J の信頼性・妥当性は検証された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Ando, S, Kawahara, T, Yasui, N, Yasuzato, M, Tabayashi, M, Masui, Y, Yamazaki, A.	4. 巻 12(6)
2. 論文標題 Mutual Experiences of Japanese Parents and Their Children When Late School-Age Children Engage in Meal-Related Family Routines: A Qualitative Analysis of Parent and Child Dyads	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Open Journal of Nursing	6. 最初と最後の頁 444-458
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4236/ojn.2022.126030	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yasuzato, M, Kawahara, T, Nakayama, Y, Tan, CC, Yamazaki, A	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 The Development of a Feeding Coparenting Scale for Japanese Parents of Fifth- and Sixth-Grade Elementary School Children	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Open Journal of Nursing	6. 最初と最後の頁 27-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4236/ojn.2024.141003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Yasuzato M, Kawahara T, Nakayama Y, Kikuchi R, Yamazaki A.
2. 発表標題 Changes in Feeding behavior of caregivers raising school-age children in Japan in association with the COVID-19 pandemic.
3. 学会等名 the 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasuzato M, Kawahara T, Nakayama Y, Kikuchi R, Yamazaki A.
2. 発表標題 Development of a Japanese version of the Feeding Coparenting Scale (J-FCS) for caregivers raising school-aged children.
3. 学会等名 the 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ando S, Kawahara T, Yasui N, Yasuzato M, Kikuchi R, Tabayashi M, Masui Y, Yamazaki A. A
2. 発表標題 A Qualitative Investigation of the Role Acquisition of Mealtime Contribution at Home in Late School-age Children: Experiences of Parent-child Dyad,
3. 学会等名 The 15st International Family Nursing Conference (IFNC15), June 28-July 2, 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安里舞子、菊池良太、川原妙、山崎あけみ
2. 発表標題 学童期の子どもを育てる家族のFood Parentingに関する文献検討
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安藤冴子・山崎あけみ・菊池良太・川原妙
2. 発表標題 学童期の子どもを育てる家族における食事と家族員の情緒的関係性についての文献検討
3. 学会等名 第30回日本小児看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasuzato M, Yamazaki A, Kikuchi R, Kawahara T, Nakayama Y
2. 発表標題 Food preferences of Japanese Parents raising school-aged children
3. 学会等名 Transcultural nursing society conference in Japan
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	菊池 良太 (Kikuchi Ryouta) (40794037)	大阪大学・医学系研究科・講師 (14401)	
研究 分担者	川原 妙 (Kawahara Tae) (00877805)	大阪大学・医学系研究科・助教 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------